ミニシンポジウム

アカイカ流し網代替漁法の展望^{*1}早瀬茂雄^{*2} (国際農林水産業研究センター), 村田 守^{*3} (北海道水産研究所)畠山良己^{*4} (水産工学研究所)

まえがき

アカイカ流し網漁業は我が国の重要な漁業の一つであったが、海産哺乳動物などの混獲ゆえに国際的な非難を受け 1992 年末に停止となった。混獲生物の生態や行動研究と代替漁法の開発は 1989 年に開始され、特別研究「アカイカの高選択性漁獲技術の開発」(1991~93 年)など多くの研究成果が得られている。ここにそれらの結果を披露し、水産資源の有効利用に関する議論の対象とすることは極めて重要と考え、これを企画した。

以上のようなことから、日本水産学会は平成 6 年 4 月 1 日、春季大会の一環として「アカイカ流し網代替漁法の展望」と題するシンポジウムを東京水産大学において開催し、研究成果を発表するとともに問題点と今後の発展方向について議論を深めた。

アカイカ流し網代替漁法の展望

企画責任者 早瀬茂雄 (農水省 国際研究センター)、
村田 守 (北水研)、畠山良己 (水工研)
開会の挨拶 早瀬茂雄 (農水省国際研究センター)

I. アカイカ流し網羅網生物の行動特性

座長 畠山良己 (水工研)

1. アカイカの日周行動と群れ特性
中村好和 (北水研)
2. 海鳥の日周行動 田中博之 (遠洋水研)
3. イルカ類のエコロケーションによる識別能力
赤松友成 (水工研)

II. 流し網代替漁法

座長 村田 守 (北水研)

1. 流し網代替漁法開発研究の現状
早瀬茂雄 (農水省国際研究センター)
2. 釣り漁法の展望 谷津明彦 (遠洋水研)

III. 総合討論

座長 早瀬茂雄 (農水省国際研究センター)
村田 守 (北水研)
畠山良己 (水工研)

閉会の挨拶 粕谷俊雄 (遠洋水研)

^{*1} Prospects for Alternative Fishing Technologies to Squid Driftnet in the North Pacific.

^{*2} Shigeo Hayase (Japan International Research Center for Agricultural Sciences, Tsukuba, Ibaraki 305, Japan).

^{*3} Mamoru Murata (Hokkaido National Fisheries Research Institute, Kushiro 085, Japan).

^{*4} Yoshimi Hatakeyama (National Research Institute of Fisheries Engineering, Hasaki, Kashima, Ibaraki 314-04, Japan).